

ページ・行	誤	正
[基準書] p. 97 18 行目	基準及び運用の解説 ・・・・、1~2 年確率流量を対象流量としていることが多い。	・・・・、一般に年 1~3 回の発生洪水流量を設計対象流量としていることが多い。
[共通編] I - 337	表-7.2.1-2 ダムタイプ (4) 中空動式コンクリートダム (7) 複合ダム (動力式コンクリートと均一型) (8) 複合ダム (動力式コンクリートとゾーン型)	(4) 中空重力式コンクリートダム (7) 複合ダム (重力式コンクリートと均一型) (8) 複合ダム (重力式コンクリートとゾーン型)
[フィルダム編] II - 62 3 行目	α が $\alpha \leq 30^\circ$ の緩い傾斜では、・・・	α が $\alpha \leq 30^\circ$ の緩い傾斜では、・・・
II - 62 6 行目	$\dot{\alpha} = \frac{d}{\cos\alpha} - \sqrt{\left(\frac{d}{\cos\alpha}\right)^2 - \left(\frac{H}{\sin\alpha}\right)^2} \dots\dots\dots (9.1.5-14)$	$\dot{\alpha} = \frac{d}{\cos\alpha} - \sqrt{\left(\frac{d}{\cos\alpha}\right)^2 - \left(\frac{H}{\sin\alpha}\right)^2} \dots\dots\dots (9.1.5-14)$
II - 63 6 行目	$\left. \begin{array}{l} \phi \geq y \text{ の時 } k = k_s \\ \phi < y \text{ の時 } k = 0 \end{array} \right\} \dots\dots\dots (9.1.5-19)$	$\left. \begin{array}{l} \phi \geq y \text{ の時 } k = k_s \\ \phi < y \text{ の時 } k = 0 \end{array} \right\} \dots\dots\dots (9.1.5-19)$
II - 65 4 行目	DEFA 面上 $\phi \leq y$ (浸出条件)	DEFA 面上 $\phi \leq y$ (浸出条件)

II-72
5行目

$$C = \frac{B_1 \sin \dot{\theta}_2}{\cos(\dot{\theta}_2 - \dot{\theta}_1)} = 19.01\text{m}$$

II-72
9行目

$$b = r \cdot 2 \sin^{-1} \left(\frac{\dot{1}}{2r} \right) = 7.80\text{m}$$

II-78
3行目

$$k_r = \frac{k}{k_s} = (s_r^*)^m \quad 0 \leq s_r^* \leq 1 \dots\dots\dots(9.1.5-28)$$

II-162
2行目

鉄筋量として D 19@300 程度を配筋している場合が多い。

II-321
2~4行目

以下、仮排水路の設計に必要とされる 2~3 の水理公式について説明を加える。
なお、ある流況他の流況に移行する限界点の近くでは、水理能力が不安定となる
ことが多いので、設計に当っては、この領域をできるだけ避けるような配慮が必要
である。

$$C = \frac{B_1 \sin \dot{\theta}_1}{\cos(\dot{\theta}_2 - \dot{\theta}_1)} = 19.01\text{m}$$

$$b = r \cdot 2 \sin^{-1} \left(\frac{\dot{1}}{2r} \right) = 7.80\text{m}$$

$$k_r = \frac{k}{k_s} = (s_r^*)^m \quad 0 \leq s_r^* \leq 1 \dots\dots\dots(9.1.5-28)$$

鉄筋量として D 16@250 程度を配筋している場合が多い。

(左記の文を削除)